

第九たいむず



No.30 2008. 1.10

通刊 773 担当 鷹実



ホームページ: www.takasaki9.com メールアドレス: takasaki9@myad.jp

〒370-0046 高崎市江木町483 TEL/FAX: 027-323-0233(団長渡辺) 携帯電話: 090-1828-8052(事務局長小野里)

明けましておめでとうございます！皆様の今年のお正月はいかがだったでしょうか。第九合唱団では、今年のスタートも団内第九演奏から華々しく始めます！！今日は歌って、食べて、飲んで、楽しく過ごしましょう。また、今年もたいむずを何卒ごひいきに、どうぞ宜しくお願いいたします。

♪シラー生家に行ってきました

【ソプラノ 赤羽洋子】

第34演奏会を大成功の内に終えて、憧れのドイツクリスマスを見に出かけました。12月23日ニュールンベルグからシュツットガルトに向かう途中、ルートヴィヒスブルグ城を見に行く予定でした。「地球の歩き方」を見ていたら、なんと案内書の上の欄に「シラーの生家」と書いてあります。近くにあるらしいのです。

ヨーロッパの数あるお城の見学より、この機会を逃したら又いつ来られるか判らないと思うと、どうしてもシラーの生家に行きたくなりました。距離的に群馬県に置き換えてみると、シュツットガルトが高崎だとしたら、ルートヴィヒスブルグが前橋、シラーの生家が有るマールバッハが渋川位の距離です。マールバッハはネッカー河沿いの小さな山(観音山の5分の1位)にある村でした。シラーの生家は山を登り始めて5軒目位で河の近くにそのまま残っています。



「シラーの生家」

中に入るとこじんまりした3階建てで3階は屋根裏部屋、2階の窓から外を見ると、すぐ下に共同の井戸が今も使われておりました。彼が洗礼を受けた教会も10軒ほど先の所に見え何も無い閑静な村です。ドイツの冬は日中でも0度以下で太陽はものぐさそうによたよたと昇っていて、月だか太陽だか判らないような、か弱い光を出しています。シラーの原点とも言える生家に入ったり、子供の頃、水遊びをしたり、雪遊びをしたであろう風景の中に身を置いて「歓喜の歌」が作られた背景などを考え、改めてシラーに思いを馳せました。

その小さな山を登りつめると平らな開けた場所があります。そこから美しい自然、山、林、ネッカー河、180度見渡せる素晴らしい風景が飛び込んできます。この丘の上からこの風景を見て若いシラーは何を考えたのでしょうか！この丘の上には「シラー国立博物館」と「ドイツ文学館」が2軒並んで建っています。その隣りの小さなショップでシラーの写真を100枚買いました。第九の皆さんへのお土産です。



若き日のシラー

前の晩ニュールンベルグの美しいオペラ座で「ドン・カルロス」のオペラを見ました。原作はシラーの戯曲です。暗くて難しく日本で演奏されることは少ないオペラです。2日続きでシラーに関わって不思議な因縁を感じました。

24日夜ホテルでテレビを見ていたら日本の大晦日の「行く年、来る年」の番組の雰囲気でも全国の教会のミサやコンサート「クリスマスイブ」を中継していました。20日に私の行ったドレスデンのフラウエン教会、シュツットガルトの教会などが次々に放送されました。「聖夜」の歌がドイツ語で流れた時思わず笑ってしまいました。ドイツ語です！ そう～～この曲はザルツブルグの近郊で作られたのだから当然ドイツ語の歌でした。今まで何の疑問も持たないで英語で歌っていた自分が可笑しくて笑ってしまいました。 どうして日本ではこの歌を英語で歌うのかしら～

今回のドイツは真冬、朝晩は氷点下7度くらいになります。朝起きて窓から見ると道も木も屋根も霜で真っ白です。日中も霜が溶けないで、木の枝が全部白く粉砂糖をふりかけたようで夢のように美しい景色でした。クリスマスマーケットではグリューワインと言うホットワインを飲みソーセージを食べながら歩き露店を見て回りました。

今回の旅で新しい年への出発と活動のエネルギーを十分に補充して来ました。今年も精一杯前向きに進んでいこうと気持ちを新たにしました。今年も宜しくお願いします。

♪NHKニューイヤーオペラコンサート(1)

【ソプラノ 小林薫子】

NHK ニューイヤーオペラコンサートに行ってきました、このコンサートは毎年1月3日に NHK ホールで行われるもので、何と今年は51回目です。テーマは、華麗なる異国趣味と永遠の名旋律で、今回は前半の華麗なる異国趣味についてです、これは東洋を舞台にしたオペラのアリアの演奏でした。曲はプッチーニの歌劇「トゥーランドット」から「誰も寝てはならぬ」、「この御殿の中で」、サン・サーンスの歌劇「サムソンとデリラ」から「あなたの声に心は開く」、ビゼーの歌劇「真珠採り」から二重唱「神殿の奥深く」、ドリーブの歌劇「鐘の歌」などで、ちなみに前半のソリストは、緑川まりさん、幸田浩子さん(以上ソプラノ)、小山由美さん(メゾ・ソプラノ)、水口聡さん、樋口達哉さん(以上テノール)、黒田博さん(バリトン)他でした。ちなみにこれらの曲の東洋の舞台とは、中国やインド、スリランカなどです。

♪メイコンサートについて (2008年5月18日(日))

5月のメイコンサートのタイトルが決まりました。その名も、「ヨーロッパの薫り」!

ステージ構成は、1st: イーゴリ公(アレクサンドル・ポルフィーリエヴィチ・ボロディン作曲、ロシア)、2st: 先生方のソロステージ(歌・ピアノなど)、3st: 椿姫(ヴェルディ作曲、イタリア)とする予定です。皆様にも役柄を割り振って演じていただくところがあるとのことです。また新しい分野の音楽に取り組みます。早速来週1月17日(木)から練習を始めますので、ふるってご参加下さい。

♪メイコンサートの楽譜 来週から販売します(400円)

来週からメイコンサートの練習がスタートしますが、楽譜も来週から販売となります。1冊400円です。受付にてお買い求めください。予習をしたかった方、ごめんなさい! m(_)_m

♪軽井沢合宿の写真、今週からお渡しします

お待たせしました。合宿の写真、購入申込をされた方々に今週から写真をお渡しします。販売担当者ごとの対応となりますので、販売者・購入者それぞれその点を宜しくお願い致します。

♪コンサート・イベント情報

2008年1月12日(土) 新春クラシックコンサート 高崎市総合福祉センター たまごホール
開場: 13:30 チケット: 1500円(前売り)

レオニード・グルチン(チェロ)、菊池清(テノール)、ユリア・レヴ(ピアノ)

2008年1月14日(祝・月) 芸術文化ホールを考えるシンポジウム 文化ホールとは何か
高崎市総合福祉センター たまごホール 14:00~ 入場無料
基調講演 栗原一浩、司会 友岡邦之、他パネリスト3名

高崎市文化課に要予約、TEL:027-321-1203、FAX:027-328-5473

E-mail: bunka@city.takasaki.gunma.jp

上記の文化ホールを考えるシンポジウム。群馬音楽センターについて大きく触れるようです。ご興味ある方は行ってみてください。私はヒマ!なので(笑)、行ってみます。

※高崎市では、まもなく築50年の群馬音楽センターの後継ホールを計画しています。建て替えか、第二ホール新築か、今後議論をしていくために必要な知識と問題点をわかりやすく話してくれます。私たちの演奏会の舞台がどうなるのか。建て替えなら数年演奏会はできないのか。新築なら高額な維持費のために使用料は値上げか。市民優遇は。後継ホールは現在のセンター形式、国際会議場形式、オペラハウス形式、教会形式(パイプオルガン等)、複合式、多層式、練習室もあるのか。私たちにとっても夢と疑問が山積で、この計画に参加する意義はかなり高そうです。まずは基礎となるシンポジウムからどうぞ。(事務局長)

♪第34回「高崎の第九」演奏会、成功!

【事務局長 小野里明】

12月15日(土)観客動員数1570名の第34回演奏会は、感動に包まれ無事終了しました。

みなさんはお客さまからどんな感想を言われましたか。私たちは練習成果の発表会を行ったものではありません。お客様を感動させる演奏会を行っているのです。お客様から「感動した」と言われて、私たちも感動し満足できるのです。そして、更に素敵なコンサートへ向けて歩いていきます。お客様からの声(アンケート)は順次お知らせします。決算・分析も役員会で議論していきます。